塩山北中学校

心豊かで主体的に活動する生徒の育成

～表現力の育成を図るための言語活動の工夫を通して～

Ⅰ　研究の方向性

教科・総合・道徳と学校教育のあらゆる場面で，言語の役割を再認識するとともに，表現力を育成するための言語活動を推進する。生徒が言語を用いて，意欲的に表現することができる言語活動のあり方について実践的な研究を推し進めていく。自分の考えや思いを多くの場面で，より適切な言葉で，正しく相手に表現することができるようになれば，確かな知性と心豊かな人間性をもち，より主体的に活動する生徒の育成につながるものと考える。

Ⅱ　研究の具体的内容と方法

1　表現力を高める言語活動の研究

（１）本校の求める「表現力」「表現力のある生徒像」の検討

（２）表現する力を高めるための具体的な言語活動の検討・実践

2　言語活動を支える言語力の育成

（１）読書活動の推進（朝読書・一斉読書・読書週間・図書だより）

（２）言語環境を整える。

3　各教科における言語活動の研究・実践

（１）研究授業の実施（音楽科・数学科）

（２）教科の特性に応じた言語活動の実践

4　塩北ライフの検討・実践

（１）「あいさつ，声かけ運動」の具体的アクションの実践

（２）授業規律，生活規律，あいさつ，返事の徹底

（３）生徒会活動では全員が主人公という意識を高め，自主的に活動させる。

（４）関連行事との連携（ｸﾘｰﾝｱｯﾌﾟ・廃品回収・保育実習・福祉施設訪問・ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動）

5　学力向上に関する研究と実践および特別支援教育に関わる研究と実践

（１）個に応じた指導の実践

（２）基礎学力の向上に関わる研究と実践

（３）特別支援教育の実践

6　昨年度からの継続研究（確認と実践）

（１）開かれた学校づくり関すること（学校評価などについての実践と検討）

（２）目標に準拠した評価（絶対評価）についての研究と実践

（３）道徳教育の継続研究，実践

（４）地域の連携校（大藤小，神金小,玉宮小,塩山北中）とのネットワーク

（５）ミニ児生連活動の継続（アルミ缶回収・地域クリーン活動）

（６）社会規範意識の醸成や基本的生活習慣の定着，思いやりの心の育成など心に元

気をはぐくむことを目指した実践活動の推進

Ⅲ　成果と課題

1　表現力を高める言語活動の取り組み（具体的内容１～４について）

今年度から新しいテーマのもと研究が始まった。まず，全職員がめざす「表現力のある姿」を共通理解し，その姿に近づくために，日常生活の中で言語活動を支える力をどう付けさせていくのか，また教科・学活・道徳指導の中で何を実践していくのかを検討した。何を求めるのか明確にし，方向性を絞ることができた。今まで当たり前のように指導してきた内容であっても，改めて確認し合うことで教員側の共通理解が図れ，実際の指導の場面で生かすことができる。あいさつや授業規律，掃除の反省会等について，全校同一歩調で取り組むことの成果を感じることができた。

教科指導の中では，教科の特性を生かした言語活動を授業展開の中に仕組むことを意識した。発表のキーワードを「形を教える」「一人じゃない」「ちょっとした工夫」の３点に絞り，それを２本の研究授業で実践した。新しい視点での授業実践となり，大変参考になり，得ることの多い研究となった。ただし，反省を踏まえての次へのステップの確認が不十分であったという課題が残った。

知識・技能を活用して課題を解決するために必要な表現力を育むことは，必須のことなので，全教科で共通できるところを探し，教科横断的な指導も取り入れていきたい。また，今年度は教科ごとに二部会に分かれたが，内容を重視した視点から小部会に分け，さらに研究を深めていきたい。

生徒の現状を見ると，まだまだ自分の意見が表現できなかったり，細かなことが全員に浸透していない面もある。授業だけでなく，日常の小さな継続した実践が大きな力になることは言うまでもない。さらに継続した研究を行うとともに，先進校の実践などを参考にし，教員自身の積極的な学びを実践につなげていきたい。

2　継続研究について（具体的内容５，６について）

今年度から北斗タイムやランクアップテストを実施したことは，学力向上の一手段として有効であり，成果があったと言える。北斗タイムはテスト期間中に集中して学習できる効果的な時間であった。ランクアップテストは基礎基本の定着を図る上で，また生徒達の学習意欲を高める上でも有効であった。今後も継続していく方向で，その実施方法や再テストについて再考していきたい。さらに，知識や技能の定着に関わって，家庭学習の習慣化や課題の与え方について検討し，学校全体として取り組んでいきたい。

年度当初に評価算出方法について再検討し，全職員で観点別評価表を作成することができた。新学習指導要領実施に向けて，今後も評価については定期的に話題にし，検討していきたい。

Ⅳ　成果物

２年音楽科指導案・１年数学科指導案・観点別学習評価資料・塩北ライフ資料

（研究主任　三枝　ゆかり）